平成29年4月11日　『蜜蜂と遠雷』本屋大賞受賞を記念して
恩田陸特別号を発行します!!　号外第1号

中田図書新聞

特別号

BOOKSなかだ掛尾本店本館・専門書館・コミックラボ　富山市掛尾町180−1　℡076−492−1192
ファボーレ店　富山市婦中町下轡田165−1　ファボーレ内　℡076−466−1888
かほく店　石川県かほく市内日角タ25　イオンモールかほく内　℡076−289−0671

祝 本屋大賞受賞『蜜蜂と遠雷』のここがすごい!!

何といってもそれぞれの楽曲の描写が素晴らしい。生の演奏を聴いた時の、涙が出そうな身震いするような感覚を文章から味わえる。また、ピアノコンクールに関わる様々な人々にスポットライトを当てたことでテンポよく場面転換が進み、ラストまで飽きさせないエンタメ作品に仕上がっている。改めて著者の引き出しの多さを実感させられた。

読了後も頭の中でピアノが鳴り続ける、そんな余韻に浸れる一冊。（斉）

ともすれば自分とはかけ離れたものに思えるピアノコンクールの世界を、身近に感じさせながらするすると読ませる。登場人物にしっかりと個性があり、実在しているかのように生き生きと書かれているためだろう。才能や競争といった残酷にもなり得るテーマを扱っており、業界の厳しさや職業にする難しさを繰り返し描写している。それでいて下品にならず、全体に繊細な美しさがあるのは、著者独特の柔らかく穏やかな文章のおかげである。（仁）

読むと絶対に聴きたくなる！「蜜蜂と遠雷」曲紹介

『蜜蜂と遠雷』の作中では、たくさんのピアノ曲が取り上げられています。その中から私の独断で何曲か紹介したいと思います。

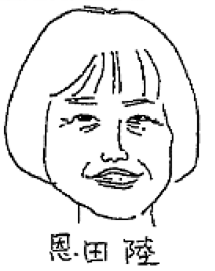
「この選曲はとんでもない天才かとんでもない阿呆かのどちらかだ」とマサルがバッサリ斬っていた、ジンの一次予選曲の**バッハ・平均律クラヴィーア曲集第一巻第一番**は、クラシック入門CDにも収録されている有名曲。同じくジンの三次予選曲の**サティ・あなたがほしい**も、聴いたら「ソレね！」と思う超有名曲です。

ジンと亜夜が、月夜に二台のピアノでやったセッションは、**ドビュッシー・月の光**から始まり「**フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン**」に移り、そして「フライ〜」になんとなく似ているという**ベートーベン・ピアノソナタ第十四番**「**月光」二楽章に入りそのまま三楽章**へ、三楽章の途中から「**ハウ・ハイ・ザ・ムーン**」の並奏がはじまり「ハウ〜」に合流しフィニッシュ。滅茶苦茶だが、即興の天才二人が心の赴くままに弾きまくる様子は、楽器が弾けない自分には眩しい。

亜夜の本選曲の**プロコフィエフ・ピアノ協奏曲第二番**と、マサルの本選曲の**プロコフィエフ・ピアノ協奏曲第三番**。二人の共通イメージは、第二番は暗黒街の抗争を描いたノワール映画、第三番はスター・ウォーズのようなスペースオペラ。確かにサントラっぽい感じも…。

紹介できなかった曲が多いのですが、最後に今回いろいろ聴いてみた中で、私のお気に入りは明石の三次予選曲の**シューマン・クライスレリアーナ**。ちなみに作中ではほとんど触れられてません…。（牧）

恩田陸さんは小学生の頃富山に住んでおり、当時市電に乗ってピアノ教室に通われていたそうです。富山での経験が今回の作品に活かされていると思うと感慨深い！さぁ皆で恩田陸さんを応援しよう！



恩田陸作品を愛する書店員が集まりました。

『六番目の小夜子』新潮文庫　五五〇円

恩田陸初心者にまず最初に読んでほしい一冊。青春・ミステリー・ホラー・色んな面が垣間見える。（津）

『夜のピクニック』新潮文庫　七一〇円

二〇〇五年本屋大賞受賞作。夜を徹して歩くという、どう考えても壮絶に辛いことをやってみたいかもしれないと血迷わせるほどに出てくるエピソードが切なくて読ませる。大人になって読んでもいいけれど、学生時代に読みたい一冊。（大）

『ユージニア』角川文庫　六二九円

街の名士の家で起こった大量毒殺事件。生き残った盲目の美少女は何を語るのか？金沢と思われる街並みが描かれているのも魅力のひとつ。（斉）

『私の家では何も起こらない』角川文庫　五六〇円

丘の上にある屋敷を舞台にしたゴシックホラー。連作短編集だからと気軽に読みはじめると、気付いた時にはもう恐怖にとりつかれている。夜に読むと恐くて眠れなくなるので気をつけて！（子）

『MAZE』双葉文庫　五五六円

中に入る人間は消えてしまうと言われている遺跡についての謎を解明する話。ぞわぞわする怖さが癖になる。中学生の時に読んで今でも引きずる位にトラウマになりました。（山）

『木洩れ日に泳ぐ魚』文春文庫　六二〇円

とある男女がアパートの一室で過ごすたった一晩の物語。舞台装置がシンプルなぶんグイグイ読ませる上手さが際立つ。真実が絶妙なタイミングで明かされていくミステリのドキドキ感はありつつも、抒情的で美しい文章は“文学を読んでいる”という満足感あり。

「女には、自己憐憫という娯楽があるのだ。」心理描写の容赦無さが怖い、恩田ワールド全開の作品。（坂）

※価格は全て本体価格です。

【書誌情報】『蜜蜂と遠雷』（恩田陸・幻冬舎・本体価格一八〇〇円）

【お知らせ】BOOKSなかだファボーレ店・かほく店 CDコーナーでは、作品中に登場する曲を集めた『蜜蜂と遠雷』フェアを開催中！お気に入りの一曲を探しに、ぜひお越しください。

【編集後記】装丁の美しさも本書の魅力のひとつ。草原を思わせるビジュアルの表紙にうっとりさせられます。そしてカバーを外してみるのはぜひ読了後に。そうすれば、更なる感動が待っているはずです。